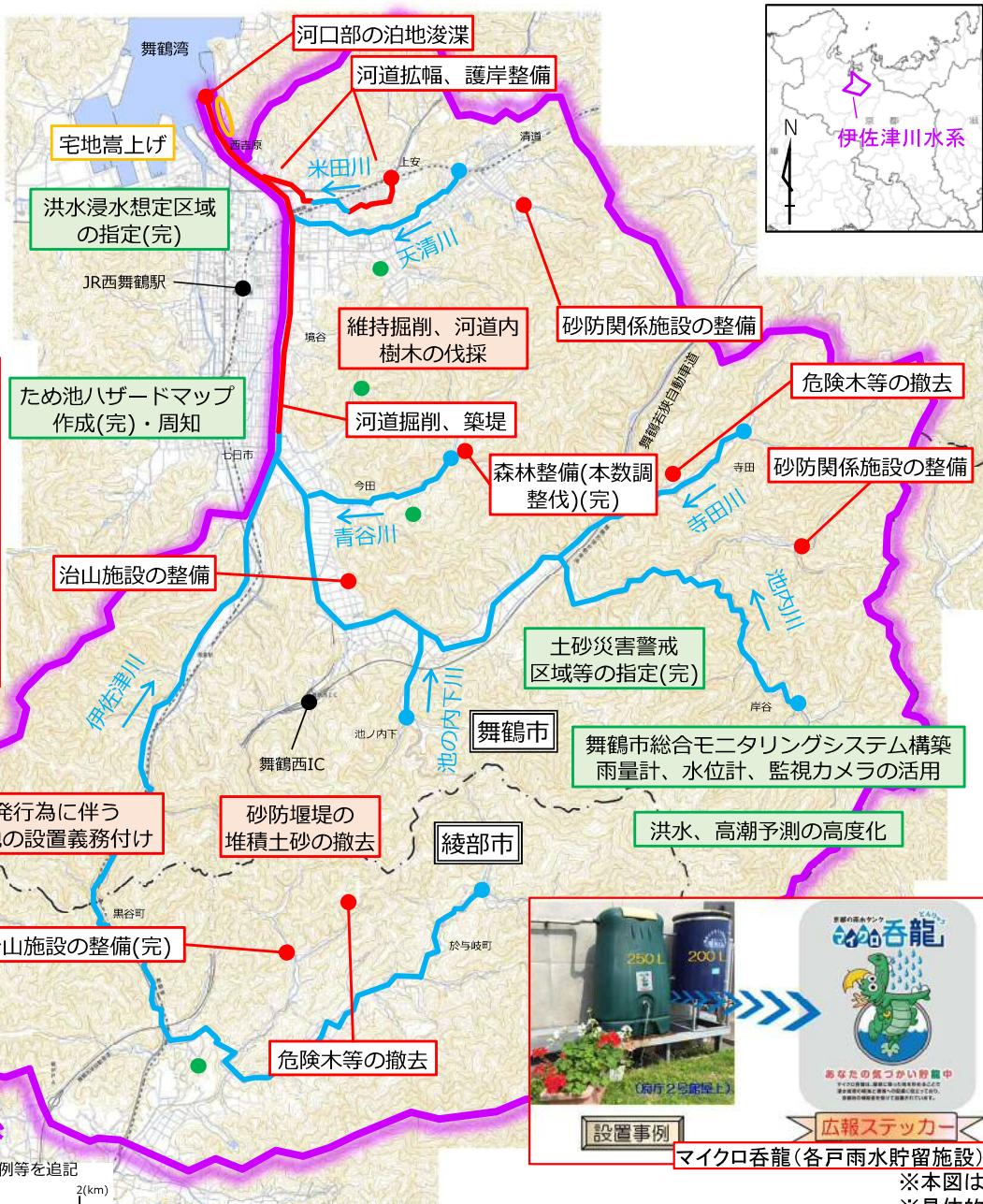


伊佐津川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～歴史的産業と暮らしを紡ぐ流域治水の推進～

○気候変動の影響による災害の頻発化・激甚化に対応するため、昭和28年台風13号と同規模の洪水を安全に流下させることを目標に河川整備を実施している伊佐津川水系では、以下の事前防災対策の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。



対策内容

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河川等整備
 - ・河川等の維持管理
 - ・漁港整備
 - ・土砂災害を防止する施設の整備・維持
 - ・流域の雨水貯留機能の向上・保全

■被害対象を減少させるための対策

- #### ・宅地嵩上げ

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・水災害リスク情報空白地帯の解消
 - ・住民の水害リスクに対する理解促進の取組
 - ・土砂災害警戒区域等の指定
 - ・避難行動に資する情報発信等の高度化
及び防災情報の充実
 - ・確実な避難行動の実施
 - ・排水ポンプ車導入、出動要請の連絡体制の整備、
排水計画に基づく排水訓練の実施
 - ・避難経路の浸水対策
 - ・水防工法等の訓練や土のう等の備蓄資材等の
確保など、水防活動の支援
 - ・地図混乱地域の解消

※災害からの安全な京都づくり条例に基づき、府、市等
が一体となって防災対策を推進



※本図は全対策の内、代表的な対策を記載している。

※具体的な対策内容については今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

～歴史的産業と暮らしを紡ぐ流域治水の推進～

- 伊佐津川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、府、市が一体となって、以下のとおり「流域治水」を推進し、流域全体の安全度の向上・保全等を図る。

【短 期】 河川整備により、河川の断面を広げるとともに、「宅地嵩上げ」や「砂防関係施設の整備」等を実施する。

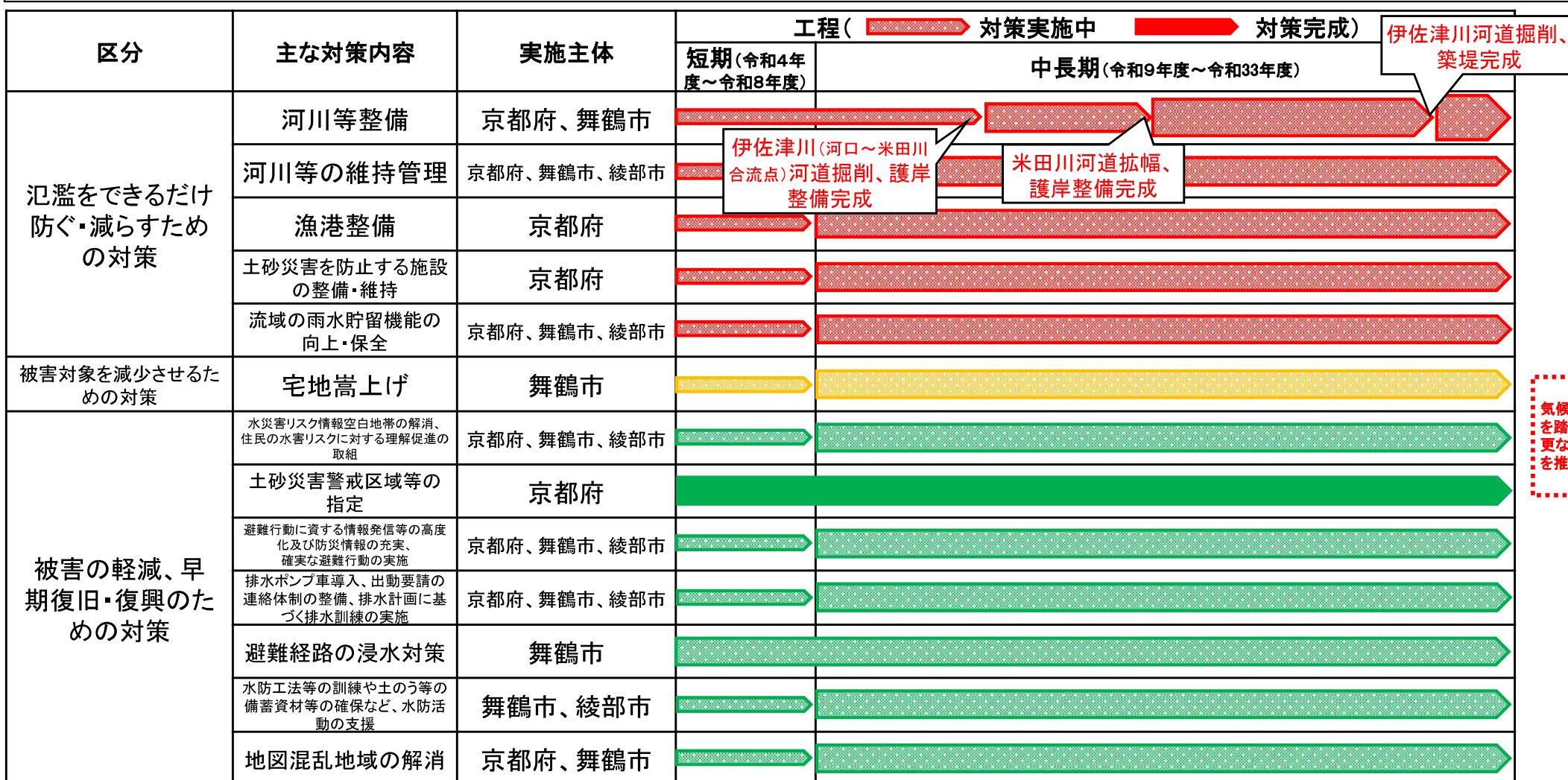
【中 長 期】 支川も含めた河川整備により、さらなる流下能力の向上を図るとともに、「水防工法等の訓練や土のう等の備蓄資材等の確保など、水防活動の支援」や「地図混乱地域の解消」等のソフト対策を実施する。

■河川対策

事業費 約42.5億円※

対策内容 河道掘削、築堤 等

※令和3年度以降の河川整備計画の残事業費を記載



※スケジュールは今後の事業進捗の状況によって変更となる場合がある。